

# QQEの成果とコロナ不況

名古屋商科大学ビジネススクール教授

原田 泰  
はら だ ゆたか

- \*QQEで何が改善したのか
- \*事実を認めない反自民の左派
- \*本気でない言論は無意味
- \*構造問題抱える金融機関
- \*「本末転倒論」の愚かさ
- \*デフレ脱却のためのリフレ派の主張
- \*ケインズのジレンマをどう考えるか
- \*増税より賢い財政出動を
- \*コロナで世界的な低金利は長期化も
- \*ベーシックインカムをどう活かすか



柴生田 それでは開会いたします。

本日は、久しぶりでございますが、原田泰さんにおいでいただきました。5年ぶりでございますので、簡単にご紹介いたします。1950年のお生まれで、東京大学を卒業後、経済企画庁に入庁され、その後、大和総研、早稲田大学を経て日本銀行の政策審議委員を務められました。その後、現在、名古屋商科大学の教授をされておられます。日銀時代にこちらが声をかけるのを少し遠慮してしまった関係でしばらくあいてしまいました。今日はその経験を踏まえてQQEの成果とコロナ後の日本経済について政策的なお話をしていただけたと思います。それでは原田さん、よろしく願いいたします。

QQEで何が改善したのか

原田 名古屋商科大学の原田です。どうぞよろしく願いいたします。

では、今日は、私が日本銀行におりましたときに実施しておりましたー現在もしています。量的・質的金融緩和（QQE）の成果と現在のコロナ不況についてお話しさせていただきますと思います。

量的・質的金融緩和を2013年の4月に開始してからもう7年経っていますし、私が2015年の3月に日本銀行政策委員会審議委員となつてから5年経って、私は退任してしまいました。にもかかわらず、目標とした物価上昇率2%は達成できていませんので、様々な批判さ